

## 研究協力依頼書

### ① 依頼者について

研究担当者名	(ふりがな) おおと りえ
	大音 理恵
所属先	京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 看護科学コース 家族看護学講座 母性看護・助産学系 修士課程
連絡先 (問い合わせ先)	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53 E-mail <a href="mailto:ohito.rie.35m@st.kyoto-u.ac.jp">ohito.rie.35m@st.kyoto-u.ac.jp</a> (大音)
研究責任者 (所属先・連絡先等)	柳吉 桂子 所属先: 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 看護科学コース 家族看護学講座 准教授 〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53 TEL 075-751-3916 E-mail <a href="mailto:yagi.keiko.5a@kyoto-u.ac.jp">yagi.keiko.5a@kyoto-u.ac.jp</a>
<p>担当者または研究チームの自己紹介</p> <p>はじめまして、私は、京都大学大学院で家族看護学を専攻しております、大音理恵と申します。これまで医療機関(産婦人科)で助産師として従事して参りました。助産師の経験と自分自身の流産経験から、流産・死産・新生児死亡で大切なお子さんとお別れされた方々のための長期的な支援の必要性を強く感じており、現在「周産期の喪失を体験した母親のケアニーズ—継続的支援に焦点をあてて—」というテーマで、研究に取り組んでおります。</p> <p>流産・死産・新生児死亡を体験されたお母様・ご家族の方の支援に関する調査や研究は、これまでも行われておりますが、多くが医療機関入院中の支援に焦点を当てたものであり、退院後の支援についての議論はまだ不十分な現状にあります。そのため、多くの方々が十分な支援を得られない状況の中、それぞれのご家庭・地域社会で悲しみに向き合っておられることと思います。そこで流産・死産・新生児死亡を体験されたお母様に、退院後の支援が必要と感じたかどうか、現在までに退院後の支援を受けたかどうか、退院後の支援に関するご意見、インターネット情報の利活用の状況とそれに関するご意見などをお伺いし、今後の支援の拡大へ活かせるよう努めて参りたいと存じます。</p> <p>直接お会いしてのインタビューとなりますので、事前にメール等で改めてご挨拶やご説明などさせていただきます。その後ご負担にならない範囲で研究の参加をご検討ください。参加されない場合も不利益が生じることは一切ございません。</p> <p>研究の中でのインタビューではございますが、皆様とのご縁を大切に、また安心していただけるよう、京都大学の先生方をはじめ、多方面からの指導を常時受ける予定です。</p> <p>以下の研究の主旨をご覧になっていただき、関心を持っていただける場合は大音(<a href="mailto:ohito.rie.35m@st.kyoto-u.ac.jp">ohito.rie.35m@st.kyoto-u.ac.jp</a>)までご連絡いただきますよう何卒宜しくお願い申し上げます。</p>	

## 研究協力依頼書

### ② 今回の研究・調査依頼について詳細

<p>* 研究テーマタイトル *</p> <p>周産期の喪失を体験した母親のケアニーズ—継続的支援に焦点をあてて—</p>	
<p>* 研究目的（なんの為の研究や調査であるかを具体的に記入）*</p> <p>流産・死産・新生児死亡を体験されたお母様が、どのような思いを抱え、過ごされ、医療機関退院後にどのような支援（インターネットを通じた支援を含む）を望まれているのか、明らかにすることを目的としています。</p> <p>現在の日本で、流産・死産・新生児死亡を体験されたお母様・ご家族の方が長期的なサポートを受けられる場所は非常に少なく、インターネットを通じた支援も十分ではありません。</p> <p>流産・死産・新生児死亡による悲しみは、長期に渡ることが先行研究でも明らかになっており、欧米では医療従事者と体験者が協同して支援を行う団体が存在します。</p> <p>そこで、日本における今後の支援の拡大に向けて、流産・死産・新生児死亡を体験されたお母様の貴重な意見をお聞かせいただきたいと思いますと考えております。</p>	
研究対象者	<p>・流産・死産・新生児死亡（人工的な流産・死産ではない）を体験されたお母様で、体験から3ヶ月以上7年以内の方</p> <p>・参加することに対する心理的負担がない方 （現在、精神科・心療内科等で心理的な治療をされていない方）</p> <p>※関西圏にお住まいの方を中心に募集しておりますが、その他のエリアであっても、関心を持っていただける場合は大音まで一度ご連絡いただけましたら幸いです。</p>
研究方法	<p>詳細について（具体的に記載すること）</p> <p>&lt;研究方法&gt;</p> <p>インタビュー調査にご協力いただきます。</p> <p>インタビュー時間は1時間程度を予定しており、ご都合のよい日程と場所で行わせていただきます。（お近くである場合は京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻内になります。）</p> <p>皆様にとってつらいご経験ですので、話したいことのみお聞かせいただき、話したくないこと、つらくなることを無理に話す必要はありません。</p> <p>またインタビュー内容は、正確に記録するため、許可をいただいてからICレコーダーに録音させていただきたいと考えております。</p> <p>&lt;研究への参加について&gt;</p> <p>本研究への参加は自由です。インタビュー途中で協力する意がなくなった場合やご気分が悪くなった場合は、いつでも協力をとりやめることができ、その際に不利益が生じることはありません。</p> <p>また、研究期間中に申し出があれば、いつでもデータや調査結果を破棄致します。</p>

## 研究協力依頼書

	<p>&lt;研究参加者にもたらされる利益及び不利益について&gt;</p> <p>流産・死産・新生児死亡の体験をお聞かせいただくものであり、時に心理的負担が生じる可能性があります。そのような場合には、必要に応じてセルフヘルプグループや医療機関などご利用可能な資源について情報提供を行うなどの対応をさせていただきます。</p> <p>その一方、体験を語ることで、ご自身の気持ちが整理される機会になる可能性もあります。</p> <p>また今回の研究成果は、今後の支援の発展に活かされます。</p> <p>&lt;経済的負担と謝礼について&gt;</p> <p>本研究に必要な費用について、参加者の方に負担を求めることはありません。</p> <p>なお謝礼(交通費を含む)といたしましては、1回のインタビューに対して現金2000円をお支払い致します。</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p>本研究は、京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院、医の倫理委員会の承認を受け、かつ研究機関の長の許可を得て実施するものです。</p> <p>また研究資金は運営費交付金から支出し、特定の企業からの資金提供は受けておりません。</p> <p>本研究の実施にあたり、利益相反については、「京都大学利益相反ポリシー」「京都大学利益相反マネジメント規程」に従い、「京都大学臨床研究利益相反審査委員会」において適切に審査されています。</p> <p>ご希望の場合は、他の研究対象者等の個人情報の保護、研究に支障がない範囲での研究に関する資料の入手・閲覧ができますので、大音までご連絡ください。</p>
研究協力者募集期間	平成30年11月末ごろまで 10～15名の方にご協力いただきたいと考えております。
研究発表先(予定)	研究の成果については、個人が特定出来ない内容で、京都大学大学院の修士論文公聴会、関連の学会・学術雑誌での公表、研究協力施設への報告を予定しています。

### ③ 研究協力者およびポコズママの会への研究結果フィードバック方法

	研究協力者へ	ポコズママの会へ
日時(いつまでに)	平成32年3月頃までに	平成32年3月頃までに
報告方法	インタビュー時にご希望をお伺いしまして、郵送で研究成果をご報告致します。	郵送で研究成果をご報告致します。

## 研究協力依頼書

フィードバックのない場合 の確認連絡先	<input type="checkbox"/> 研究依頼者( 大音 理恵 E-mail ohto.rie.35m@st.kyoto-u.ac.jp) <input type="checkbox"/> 研究責任者( 柳吉 桂子 TEL 075-751-3916 E-mail yagi.keiko.5a@kyoto-u.ac.jp)
------------------------	---

### ④ 個人情報保護について

本研究で得られた情報は、研究以外の目的で使用することはありません。また、他に漏れることがないよう慎重に取り扱います。

個人が特定されることがないように、調査における名前・場所・日時及びその他の個人情報は、全て記号化します。

また記号化における対応表、データ管理に使用するパソコン・ハードディスク(パスワード機能付き)、研究で使用する紙媒体はすべて個人情報として、施錠できる場所で厳重に保管致します。研究終了後は10年間保管したのち、電子媒体・紙媒体ともに復元が出来ない方法でデータを消去・破棄致します。